

第73回日本PTA全国研究大会

石川大会 2025年8月22日/8月23日

参加者報告書



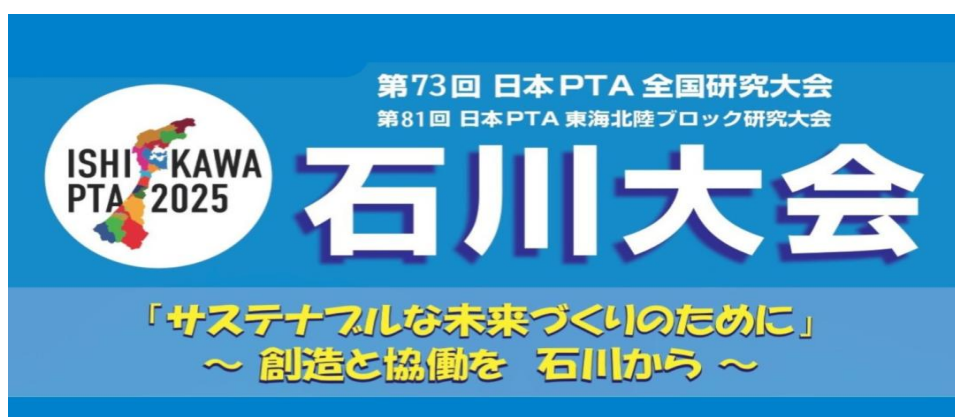
栃木県PTA連合会



令和7年度の日本PTA全国研究大会は、「サステナブルな未来づくりのために」～創造と協働を石川から～をテーマに、石川県内6市において開催されました。第1日目は、6つの分科会と特別第1分科会の7分野における発表・講演がありました。第2日目、石川県立音楽堂コンサートホールをメイン会場に、第1日目の各分科会会場をサテライト会場として全体会と特別第2分科会がありました。本県からは30名が参加いたしました。

会員の皆様と大会の様子を共有するために、参加した皆さんに報告書を作成いただきました。ぜひ、ご覧になってください。

栃木県PTA連合会 会長 福田治久



分科会	8月22日(金) 石川県内 8分科会	全体会	8月23日(土) メイン会場・サテライト7会場	参加者	全国小・中学校 PTA 会員及び 関係者 6,000 人	参加費	一人 5,000 円	
				会場		分科会・領域		全体会
	七尾市	七尾市文化ホール		第3分科会(地域連携)		分科会会場をインターネット回線で結び開催		
	金沢市	金沢歌劇座		第5分科会(広報活動)				
		石川県立音楽堂 邦楽ホール		特別第1分科会【日本PTA 担当】				
	野々市市	石川県立音楽堂 コンサートホール 【全体会 メイン会場】		特別第2分科会【文部科学省協力】				
		野々市市文化会館 フォルテ		第6分科会(SDGsウェルビーイング)				
	白山市	白山市松任文化会館 ビーノ		第4分科会(人権教育)				
小松市	石川県小松市團十郎芸術劇場 うらら		第1分科会(家庭教育)					
加賀市	加賀市文化会館		第2分科会(学校教育)					

石川大会のホームページは以下のURLからご覧いただけます。

<https://zenkokutaiikai73.ishikawa-pta.jp/>

第73回日本PTA全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	K. Y
2.協議会名	栃木県PTA連合会（宇都宮市PTA連合会）
3.役職	副会長
4.分科名 領域	第3分科会 地域連携
5.テーマ	災害を通して得られた教訓を生かす ～後悔のない備えを 地域の力で～
6.内容・感想	<p>金沢駅から在来線で約1時間で会場へ。令和6年元旦の大地震と大雨。被災地と避難所のリアルなお話を、輪島市教育長の小川先生より基調講演を拝聴。印象的な内容は、有事の際は、生徒・保護者・地域住民が一体となることの大切さを語っておられました。また生徒の「集団疎開」を、石川県と隣接市と協力し実施したことや避難所となる学校の覚悟など、あっという間の55分間で、涙なく聞くことはできませんでした。第二部は5名が登壇しパネルディスカッション。基調講演の小川教育長はじめ、被災体験を持つ仙台・福島・七尾・熊本のPTA代表者が進行役とパネリストでした。</p> <p>被災の経験を教訓に変え語っていかなければならないという信念のもと、未来の子どもたちのために尽力した体験を、同じ親目線で拝聴できたのは貴重でした。中でも避難所で組織的に連携し機能したPTAの組織のお話しには感動いたしました。避難所では自分自身も被災者であり、家族と自分を守る自助を果たすことが精一杯だが、県PTAや日本PTA、同じく被災体験を持つPTAからの支援には励まされたと皆さん仰っておりました。</p> <p>総括として小川教育長は、孤立させずつながりを大切にするPTAの組織は、なくてはならない。地域防災の担い手は現役のPTA世代。「地球が優しい街になる」これが地域連携の原点です。そう締めくくられました。貴重な経験と学びに感謝いたします。</p>

第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	D. N
2.協議会名	宇都宮市 P T A 連合会
3.役職	副会長
4.分科名 領域	特別第 2 分科会・今日的課題
5.テーマ	学校教育における防災の学び ～令和 6 年能登半島地震とその後の豪雨災害から 得られた教訓をどう生かしていくか～
6.内容	講演とパネルディスカッションが文部科学省協力で実施。 ここ数年、日本は自然災害が非常に多く、大人はもちろん子どもたちが正しい判断、行動をとれるようにならなければならない。
7.感想	実際に災害が起きた際、近所の人や地域の方と協力なくしては乗り切れないことが沢山ある。 私として日ごろからできることは、地域、学校、子どもたちとの日ごろからのコミュニケーションを高め、信頼関係を築いていくことが最優先だと感じた。

第73回日本PTA全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	K. S
2.協議会名	栃木県PTA連合会（宇都宮市PTA連合会）
3.役職	理事（副会長）
4.分科名 領域	特別第2分科会・今日的課題
5.テーマ	学校教育における防災の学び ～令和6年能登半島地震とその後の豪雨災害から 得られた教訓をどう生かしていくか～
6.内容	石川県では、令和6年能登半島地震により甚大な被害に見舞われ、その後起きた豪雨被害により二次的な災害が起きた。その経験の軸に文部科学省も交えてパネルディスカッションが行われた。
7.感想	<p>近年、自然災害や人的な災害が多数発生しています。災害は、いつ起こるかも予想がつかないことが大半だと思います。今回の話の中にもありましたが、この事例や教訓的なことを踏まえながら、その時々の変化に対応することが大切なのはもとより、日頃のコミュニティでの対策や子どもたちへの災害の伝承や日頃の訓練などの対策もしていかなければと思いました。</p> <p>それには、PTA組織としても地域活動に参加や子どもたちとのつながりを今まで以上に大切にしていこうと感じさせられました。</p>

第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	H. S
2.協議会名	宇都宮市 P T A 連合会
3.役職	専務理事
4.分科名 領域	特別第 2 分科会・今日的課題
5.テーマ	<p>学校教育における防災の学び</p> <p>～令和 6 年能登半島地震とその後の豪雨災害から 得られた教訓をどう生かしていくか～</p>
6.内容	<p>基調講演と被災地での実践活動を交えたパネルディスカッションが文部科学省協力のもと行われた。</p> <p>最近 3 0 年間の我が国の自然災害は阪神淡路大震災に始まり、東日本大震災、昨年は能登半島地震があり、多くの尊い命や平穏な暮らしが奪われることとなった。</p> <p>自然災害は大人の指揮下で起きるだけでなく、その場に大人がいなく子どもが判断、決断行動しなければならない時がある。下校途中などで子どもたちだけしかいないとき災害が起こったらどうするか。大人だけでなく、子どもたちが正しい知識のもと正しい判断、行動が出きる様にする防災教育が必要である。エビデンスに基づき避難するのが通常であるが、災害は未知なところもあり、エビデンスが全てでなく災害場面に応じてエビデンスのない判断が必要になる時もある。</p>
7.感想	<p>自助としては、「自分の命は、自分で守る。」を合言葉に防災教育が行われるべきだと感じた。</p> <p>公助としても災害時に正しい判断をし共に避難できるように、生命を尊重し、過去の災害の事例を知り、生活している地域の防災体制を知り、地域の自然環境や地震や火災、津波などの恐ろしさを知りそのうえで一つの避難行動に出られるひと（大人も子どもも）を育てていかなければならない。正しいことを言っても皆がそれに従ってくれなければ意味がないので日頃からの信頼関係も大切だと感じた。</p> <p>P T A としてはまず、地域・学校それぞれの顔の見える互いの信頼関係を高めていく有意義な企画を提供する必要性を感じた。</p>

第73回日本PTA全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	R. 0
2.協議会名	宇都宮市PTA連合会
3.役職	事務局員
4.分科名 領域	特別第2分科会・今日的課題
5.テーマ	学校教育における防災の学び ～令和6年能登半島地震とその後の豪雨災害から 得られた教訓をどう生かしていくか～
6.内容	能登半島地震により、行政、地域、学校、各家庭とのつながりの大切さ 自然災害との向き合い方。
7.感想	人が関与することのできない自然災害。その時に、どう関わりどう行動 するべきなのかを改めて考えさせられました。 学校にいる間に災害に見舞われた場合、親御さんが迎えに来るまで、学 校側の判断・対処の仕方は、とても大切で大変なことなのだろうと考えさ せられました。

第73回日本PTA全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	H. M
2.協議会名	栃木県PTA連合会（宇都宮市PTA連合会）
3.役職	理事（副会長）
4.分科名 領域	特別第2分科会・今日的課題
5.テーマ	学校教育における防災の学び ～令和6年能登半島地震とその後の豪雨災害から 得られた教訓をどう生かしていくか～
6.内容	令和6年1月1日の能登半島地震により、自然災害にどう向き合うのかを考える必要があり、地域住民と共に防災の学びの充実を図らなければならない中、行政、学校、地域の結びつきを考える。
7.感想	約30年前に発生した、阪神淡路大震災の地域のPTAの方も登壇していて、話を聞く限り、防災に対して、PTAとしてどうということは相当難しく、地域・行政・学校が連携する必要性を改めて感じました。

第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	T. S
2.協議会名	栃木県 P T A 連合会（宇都宮市 P T A 連合会）
3.役職	理事（副会長）
4.分科名 領域	特別第 2 分科会・今日的課題
5.テーマ	学校教育における防災の学び ～令和 6 年能登半島地震とその後の豪雨災害から 得られた教訓をどう生かしていくか～
6.内容	下記の視点を持った基調講演とパネルディスカッション 1. 学校教育の場で進められている防災教育の現状 2. 能登半島地震で得られた教訓とは 3. 行政・学校・地域の連携と育てていきたい子どもの姿
7.感想	<p>令和 7 年 8 月 2 2 日から 2 3 日にかけて、第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会が開催された。初日である 2 2 日金曜日、石川県立音楽堂コンサートホールを会場とした特別第 2 分科会「学校教育における防災の学び～令和 6 年能登半島地震とその後の豪雨災害から得られた教訓をどう生かしていくか～」に参加した。</p> <p>当分科会は文部科学省の協力により、基調講演と被災地での実践活動を交えたパネルディスカッションで構成されたものである。</p> <p>我が国は、阪神淡路大震災から 30 年が経過したものの、昨年は能登半島地震により多くの尊い命と平穏な生活が奪われることとなった。その間においても東日本大震災や豪雨災害をはじめとして、さまざまな自然災害に見舞われている。自然災害は、大人だけでなく子どもも当事者となる。自然災害の多い我が国において必要なことは何か、それが防災教育である。私たち一人ひとりが自然災害についての正しい知識を持ち、事例を知ることが防災教育の第一歩となる。図らずも被災した地域では、学校を核とした地域復興、地域づくりが行われており、それは言い換えれば子どもたちを核とした地域づくりとなる。</p> <p>子どもたちにおける防災教育は、災害時に自らを守ると共に、自らの住む地域の実情を含めた数多くの事柄を学ぶことによって、郷土愛を育むことが可能となるものであることを学んだ研修であった。</p>

第73回日本PTA全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	S. I
2.協議会名	栃木県PTA連合会（上三川町小中学校PTA連絡協議会）
3.役職	理事（会長）
4.分科名 領域	特別第2分科会・今日的課題
5.テーマ	学校教育における防災の学び ～令和6年能登半島地震とその後の豪雨災害から 得られた教訓をどう生かしていくか～
6.内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育の場で進められている防災教育の現状 2. 能登半島地震で得られた教訓とは 3. 行政・学校・地域の連携と育てていきたい子どもの姿
7.感想	<p>・能登半島地震を通して、災害に対して命を守るためには日頃からの備えと学びがいかに大切かを痛感しました。印象的だったのは、学校が地域の避難拠点となり、子どもたちだけでなく地域住民の命を守る重要な役割を果たしていたという点です。学校教育の中で防災を学ぶことは、単に知識をつけるだけでなく、実際に行動できる力＝「生きる力」を育てることに繋がっていると感じました。また、日頃からの避難訓練や地域との連携の有無が大きな差を生んでいたという事例には、とても考えさせられました。災害時に正しい判断と行動ができるかどうかは、やはり普段の教育と訓練にかかっていると実感しました。</p>

第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会 報告書

①.氏名	D. N
2.協議会名	上三川町小中学校 P T A 連絡協議会
3.役職	本郷北小学校 P T A 福会長
4.分科名 領域	特別第 2 分科会・今日的課題
5.テーマ	学校教育における防災の学び
6.内容	<p>防災教育は単に生命を守る技術の教育として狭く捉えていくのではなく、どのような児童生徒等の資質・能力を育みたいのかという視点から「防災を通した教育」と広く捉えることも必要となっています。</p> <p>すなわち、防災教育には、災害時に自分と周囲の人の命を守ることができるようなことが PTA で出来るのか？を強調するのではなく自然がもたらす恩恵などについて触れることにより、児童生徒等が自身の暮らす地域に対する理解を深めることができるようにすることも大切であると考えています。</p>
7.感想	<p>学校教育における防災学びについての感想をまとめると、次のような点が重要で有意義だと感じます。</p> <p>必要性と意義：自然災害が頻発する日本において、子どものうちからの防災教育は命を守るために不可欠です。知識だけでなく行動習慣や判断力、協力する態度を育てることが大切です。</p> <p>学びの強み：学校は定期的に避難訓練や防災講話、地域と連携した訓練を行える場です。教科横断的に防災を扱えば、理科で地震の仕組みを学び、社会で地域のリスクを理解し、家庭科で非常食の調理を体験するなど実践的な学習が可能です。</p> <p>課題：形式的な「訓練だけ」にとどまってしまうことがある点、教員の専門性不足や時間割の制約、特別支援を必要とする児童への配慮が十分でない場合がある点が課題です。また、家庭や地域との連携が弱いと、学校での学びが家庭へ還元されにくいです。</p> <p>改善の提案：実践重視のカリキュラム化（定期訓練＋事後の振り返りを必須化） 教員研修や外部専門家の活用による専門性の確保 シナリオを変えた多様な訓練（夜間想定、情報遮断下での判断等） ソーシャル・エモーショナルな支援の導入（避難時の心理ケアを学ぶ） 障害のある子どもや外国籍児童への配慮と個別計画 家庭・地域とつながる防災イベントや情報共有の仕組みづくり</p> <p>期待する効果：こうした学びを通じて、児童生徒が自分や周囲の人を守る力を持ち、地域全体のレジリエンス（復元力）が高まることが期待できます。平常時から備えや日常生活でのリスク意識も育ちます。</p> <p>総じて、学校教育における防災は単なる知識伝達ではなく、行動力・協働性・思考力を育む良い機会です。より実践的で包摂的な取り組みを進めることで、子どもたちの安全と地域の安心につながると考えます。</p>

第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	T. K
2.協議会名	真岡市 P T A 連絡協議会
3.役職	西田井小学校 P T A 会長
4.分科名 領域	記念講演 特別第 2 分科会・今日的課題
5.テーマ	能登の創造的復興と学びの環境 ～学習環境の魅力化あってこそその復興～
6.内容	<p>石川県知事による記念講演（元経済産業省職員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「未来の教室」の立ち上げ（1 人 1 台端末と ED TECH 活用） ・文部科学省とともに「G I G A スクール構想」による学校デジタル環境整備を推進 ・スポーツ産業の事業環境整備と学校部活道と民間クラブの融合を文部科学省と推進 ・その後、石川県副知事に就任 ・各地域の有休施設を活かし、教育活動の場を県主導で提供している。
7.感想	<p>本校でも今年度から学校運営協議会がスタートした。また、P T A 活動の在り方が希薄になり、教師、保護者の中から必要性を問われている昨今、本校の P T A 活動をどのようにしていくかを参考にしたいと思い参加した。</p> <p>今回の浅野氏の講演で気付いたのは、方法論を探すのではなく、在り方、つまり子どもはどう在るべきかを考えなくてはならないと感じた。</p> <p>子どもの育成のために存在している P T A が、大人のエゴで子どものための活動を減らそうとしているのは、子どもの育成にならないと痛感した。</p> <p>これから学校運営協議会を進めるにあたり、P T A の意義も再確認して子どもの育成のために尽力したいと思う。</p>

第73回日本PTA全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	M. H
2.協議会名	真岡市PTA連絡協議会
3.役職	大内東小学校PTA会長
4.分科名 領域	第5分科会 広報活動
5.テーマ	学校が楽しくなる！仲間が集まる広報活動 ～一緒に新しいカギを手に入れよう～
6.内容	<p>8/22（金）（分科会）パネルディスカッション①～③</p> <p>○基調提案・実践発表・パネリスト・的場茂樹氏（金沢学院大学准教授）</p> <p>阿部雄介氏（岐阜県PTA連合会会長）・大谷イビサ氏（（株）角川アスキー総合研究所 TECH. ASCII. jp 編集長）</p> <p>○コーディネーター 相羽大輔氏（前金沢市PTA協議会会長）</p> <p>8/23（土）（全体会）</p> <p>○石川県副知事 浅野大介氏記念講演</p> <p>「能登の創造的復興と学びの環境～学習環境の魅力化あってこそその復興～」</p>
7.感想	<p>PTA活動において、Pの参加率向上は常に課題になってくるかと思います。その中でも、役員の取り組む姿勢や活動に際し、楽しく発信していく事が一つの鍵になるのではと思いました。</p> <p>また、各事業の精査や会議などのあり方、進め方なども参加しやすい形を時代の変化に合わせて行っていく事が今後の活動には必要不可欠ではないかと思いました。</p> <p>浅野副知事の講演の中でも、子どもたちの探求教育の重要性が語られておりましたが、詰め込み教育ではなく、世の中にある情報を自ら収集し、そこから新たな課題をみつけたし、解決策を模索していく教育こそが今後の教育には一番求められるのではないかと思います。</p>

第73回日本PTA全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	H. O
2.協議会名	真岡市PTA連絡協議会
3.役職	久下田中学校PTA会長
4.分科名 領域	第5分科会 広報活動
5.テーマ	学校が楽しくなる！仲間が集まる広報活動 ～一緒に新しいカギを手に入れよう～
6.内容	<div data-bbox="445 613 676 916" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="421 940 713 1162" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="743 663 1345 1093" data-label="Text"> <p>ロビーには各学校の広報誌が置いてあり自由に手に取り見ることができました。見開きタイプも多く、先生方の紹介・運動会などの学校行事の記事が掲載されていました。</p> <p>講演会ではPTA有志の方々の世にも奇妙な物語風の寸劇が繰り広げられ、問題点がとても分かりやすく紹介されていました。</p> <p>基調提案ではそれぞれの経験の中からのお話を聞くことができました。</p> </div>
7.感想	<div data-bbox="429 1301 1003 1677" data-label="Text"> <p>学校の広報誌づくりにも携わっているので現地の学校の広報誌を直接見ることができて為になりました。どこの地域も課題は同じだということも分かりました。</p> <p>また二日目の浅野副知事のお話もとても興味深く大変有意義な石川大会となりました。参加して良かったです。</p> </div> <div data-bbox="1011 1223 1382 1498" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1075 1509 1299 1800" data-label="Image"> </div>

第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	H. A
2.協議会名	真岡市 P T A 連絡協議会
3.役職	真岡中学校 P T A 会長
4.分科名 領域	第 5 分科会 広報活動
5.テーマ	学校が楽しくなる！仲間が集まる広報活動 ～一緒に新しいカギを手に入れよう～
6.内容	<p>8/22（金）（分科会）</p> <p>パネルディスカッション①～③</p> <p>○基調講演・実践発表・パネリスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 的場茂樹氏（金沢学院大学准教授） ・ 阿部雄介氏（岐阜県 P T A 連合会会長） ・ 大谷イビサ氏（（株）角川アスキー総合研究所 TECH.ASCII.jp 編集長） <p>○コーディネーター 相羽大輔氏（前金沢市 P T A 協議会会長）</p> <p>8/23（土）（全体会）</p> <p>○石川県副知事 浅野大介氏</p> <p>記念講演「能登の創造的復興と学びの環境～学習環境の魅力化あってこそその復興～」</p>
7.感想	<p>P T A の参加率を高め、有意義で充実した活動を実現するための広報活動を行う前提として、まずは教職員の先生方の働き方改革をすすめていただき、本来必要とされる P T A 活動の精査を行う必要があると感じています。</p> <p>役員は決めたものの活動内容は縮小・形骸化しているもの、P T A 動への対応が教職員の方の業務の一部になっているもの等を良く整理し、不要な活動は思い切って見直し、今の学校に本当に必要とされている活動へと我々 P T A 執行部も覚悟を持ってシフトしていかなければ、仲間づくり、魅力ある P T A 活動、そしてその広報活動もなかなか難しいと感じます。この負のスパイラルから脱却したいと思いつつ、何か新たにやれば学校・先生方の負担増となる構造的課題にどこから手を付ければ良いのか、解決の糸口を求めて日々悶々としているところですので、今後も先進事例等から勉強させていただきたいと思います。</p> <p>2 日目全体会の浅野副知事による講演は大変楽しく勉強になりました。これから将来の目指すべき目標を正しく捉え、新しい時代や価値観に呼応する教育改革、子どもがわくわくする授業づくり。子どもたちが心から楽しむ授業や学校生活への変化・変容を入口として、P T A 活動への保護者の関心も高まり、仲間づくりへと広がっていくのではないかと期待しています。</p>

第73回日本PTA全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	H. I
2.協議会名	真岡市PTA連絡協議会
3.役職	真岡小学校PTA会長
4.分科名 領域	第5分科会 広報活動
5.テーマ	学校が楽しくなる！仲間が集まる広報活動 ～一緒に新しいカギを手に入れよう～
6.内容	8/22（金）（分科会） パネルディスカッション ○テーマ 基調講演・実践発表 ○パネリスト・的場茂樹氏・阿部雄介氏・大谷イビサ氏 ○コーディネーター 相羽大輔氏（前金沢市PTA協議会会長）
7.感想	<p>「学校が楽しくなる広報活動」というメインテーマのもとでの、パネルディスカッション形式でそれぞれの立場や、経験をもとにした発表が行われた。</p> <p>それぞれの実体験や、客観的な視点での意見は大変参考になったものの、地域性や背景などの違いも感じた。その中で改めて感じたのは、PTA活動を楽しんでいると感じて頂くためには、PTA活動の定義の整理と、自主性を持った活動のできる環境が必要と感じたが、PTAに対しての熱量が学校や個人によっても大きく違う中で、それをどのようにつくっていくかが大きな課題。</p> <p>真岡市内のPTA組織を見ていると、土着性の強い地域と、移住者が多い地域での雰囲気は大きく異なるため、まずはそれぞれの地域性を理解した上での雰囲気づくりを進めたうえで、口コミや紙媒体、デジタル技術などを併用しながら、PTA活動の楽しさを発信する必要があると感じた。</p>

第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	J. J
2.協議会名	栃木県 P T A 連合会（茂木町 P T A 協議会）
3.役職	副会長（会長）
4.分科名 領域	第 5 分科会 広報活動
5.テーマ	学校が楽しくなる！仲間が集まる広報活動 ～一緒に新しいカギを手に入れよう～
6.内容	<p>家庭や地域と連携して進める私たちの活動が、メディアなどで誤って伝えられ、必要な PTA 活動までも否定的に受け取られ、協力が得にくい状況が生まれている。こうした中で活動を理解してもらうためには、広報の力が不可欠であり、「学校の現状を正しく伝える」「仲間を増やす」「誰でも取り組める」広報活動が求められている。</p> <p>具体的には、学校の現状がなぜ伝わらないのか（情報を知る機会が減っているのではないか）、仲間がなぜ増えないのか（負担が大きいと感じられているのではないか）、なぜ誰でも取り組める広報にならないのか（新しい技術への苦手意識があるのではないか）、といった課題がある。</p> <p>今回のパネルディスカッションでは、学校・家庭・地域に知見をもつ 3 名のパネリストが、「学校が楽しくなる！仲間が集まる広報活動～一緒に新しいカギを手に入れよう～」をテーマに、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校から保護者や地域に向けた広報の在り方 ② 負担を感じず前向きに取り組める広報の工夫 ③ 時代に即した新しい広報の提案 <p>について意見を交わし、コーディネーターとともに解決策を探っていった。</p>
7.感想	<p>今回のパネルディスカッションを通して、私は改めて、子育ての時間は戻せない貴重なものであり、PTA 活動も「今しかできないこと」とであると実感しました。だからこそ、未来のためにできることを精一杯取り組み、楽しむことが大切だと感じました。</p> <p>また、基本的に子どもに関心のない親はいないものの、日々の生活が忙しく、PTA 活動まで目を向ける余裕がない方も多くいます。受け身ではなく、自ら学びに行く姿勢が理想ですが、積極的に行動できる人ばかりではないのが現実です。</p> <p>こうした状況だからこそ、PTA 活動を通して得られる学びや喜び、楽しさを積極的に発信していくことが重要だと思いました。さらに、デジタルツールなどを活用することで、活動の負担を減らしながら、多くの人に参加しやすい環境を作れるのではないかと感じました。</p>

第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	Y. N
2.協議会名	栃木県 P T A 連合会（芳賀町 P T A 協議会）
3.役職	理事（会長）
4.分科名 領域	第 1 科会 家庭教育
5.テーマ	子供の意欲を高める家庭教育 ～子供は家でこそわがままであれ～
6.内容	<p>基調講演「子供は家でこそわがままであれ」 佐藤健司氏：法務少年支援センター仙台（仙台少年鑑別所）所長 非行の専門家の視点から不登校について論じる。</p> <p>【不登校の定義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校とは、学校で安心して過ごせない（適応不全）ことで高まる不安 ・不満からの一時的非難 <p>【家庭教育の役割】（安心安全な場の提供）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な居場所作り（家庭に安心していられるため「大切なわがまま」を言える環境整備 <p>【家庭教育の役割】（まとめ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力（有形・無形にかかわらず）を受けない。 （安心安全な場の提供・積極的に逃げ場を確保） ・自分自身で生き方を決める。 （本人をその気にさせる・適切な判断ができるように見守る・意思決定に必要な情報提供や励まし・見捨てず伴奏する）
7.感想	<p>何年か前の資料で、芳賀町の小中学校の不登校児童生徒の割合が当時 3 %程度だったと記憶しております。</p> <p>★一番重要なことは『当事者である児童生徒と関わる大人(学校・家族)との間での目標設定に関わる目線合わせ』・・・不登校児童生徒への支援は「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自ら進路を主体的に捉えて社会的に自立することを目指す必要がある。・・・と添付資料にあります、子供を見守りつつ粘り強く聴く覚悟が必要な、月並みですが大変な作業だと感じました。</p>

第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	K. S
2.協議会名	栃木県 P T A 連合会（小山市 P T A 連合会）
3.役職	企画研修委員会副委員長
4.分科名 領域	特別第 2 分科会 今日の課題
5.テーマ	学校教育における防災の学び
6.内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基調講演は文部科学省の木下史子氏 ・ 子供の防災や学校の安全の体系 ・ 防災を通して社会参加、大事な命の守り方を学校（子ども）と一緒に学ぶ ・ 兵庫県 PTA 連合会の太谷様からは 30 年前の地震の話や兵庫県 P としての取組等の話 ・ 文部科学省 CS マイスター猿渡様からは地域学校教育活動の話 ・ 内閣府の国崎様からは防災教育の話
7.感想	<p>・ 令和 6 年 1 月 1 日に起きた能登半島地震での死者・行方不明者は、約 600 名に及ぶ。平成 7 年の阪神淡路大震災に至っては約 6,400 名の死者数となります。栃木県から遠い場所での出来事と感じていたが、具体的な数字を聞かされてしまうと改めてその規模の大きさに驚かされました。東日本大震災を経験してはいますが、防災への意識を強く感じさせられました。</p> <p>いつ・どこで起こるか分からない震災等に備える事も大事ですが、親として PTA として、震災後の地域コミュニティへの係わり方等の大事さも学びました。</p>

第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	H. T
2.協議会名	栃木県 P T A 連合会（さくら市 P T A 協議会）
3.役職	理事（会長）
4.分科名 領域	第 3 分科会 地域連携
5.テーマ	災害を通して得られた教訓を生かす ～後悔のない備えを 地域の力で～
6.内容	<p>（１）第 3 分科会</p> <p>① 開会式 アトラクション：鶴浦豊年太鼓による演奏披露</p> <p>② 講演 輪島市教育長 小川 正 氏</p> <p>③ パネルディスカッション パネリスト：輪島市教育長 元七尾市 P T A 連合会副会長、熊本市 P T A 協議会 会長、福島県 P T A 連合会副会長</p> <p>（２）全体会（メイン会場とリモートで接続して視聴）</p> <p>① 開会式 アトラクション：金沢子どもはしご登り教室による加賀 とびはしご登り実演</p> <p>② 講演 石川県副知事 浅野 大介 氏</p>
7.感想	<p>（１）第 3 分科会</p> <p>①災害時に中学生が率先して行動する必要性について説明があった。 平日昼間には大人が地区外で勤労する状況であるため、地区内で真っ 先に行動できる中学生が避難所の運営に参画するよう訓練しておく必 要がある。P T A 活動の一環として、災害時に活用できる技術を習得 する内容を行事に組み込む必要がある。</p> <p>②災害時を想定した教育を実施している事例が紹介された。 いわき市立好間中学校の事例 1 年生は自助、2 年生は共助、3 年生は公助をテーマに学習を行う。 二本松市立二本松第一中学校の事例 文化祭において、炊き出しを想定して豚汁の調理を行い、校内で振る舞う。</p>

第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	Y. H
2.協議会名	高根沢 P T A 連絡協議会
3.役職	庶務
4.分科名 領域	第 6 分科会 今日の課題 SDG s ウェルビーイング
5.テーマ	質の高い教育環境を整えるために～PTA が今できること～
6.内容	<p>8 月 2 2 日（金）野々市市文化会館</p> <p>オープニングアトラクション：野々市明倫高等学校吹奏楽部</p> <p>基調講演「質の高い教育環境を整えるために」平本督太郎氏</p> <p>実践発表「質の高い教育を持続可能にするために」館野小 PTA 小川貴敬氏</p> <p>パネルディスカッション：新田英理子氏、坂江裕美氏、浦山利博氏</p> <p>8 月 2 3 日（土）野々市市文化会館（サテライト会場）</p> <p>東海北陸ブロック大会</p> <p>アトラクション：加賀とびはしご登り</p> <p>記念講演：「能登の創造的復興と学びの環境」</p> <p style="text-align: right;">～学習環境の魅力化あってこそその復興～ 石川県副知事 浅野大介氏</p>
7.感想	<p>1 日目の基調講演で金沢工業大学平本教授のお話から印象に残ったのは、「少子化社会なので逆に大勢いる大人が持続可能な教育環境を作るカギとなること。子どもの声を聞き、一緒に楽しみ、味方になる。」ことであった。また、館野小 PTA 小川氏の実践発表では、教師の過剰な勤務時間や増加する休職者数の現状から、保護者ボランティアが教育に関わろうと試みる取組の一端を知ることができた。</p> <p>2 日目の記念講演では、東大経済学部卒元経産省官僚・現石川県副知事浅野氏から、自らが携わった GIGA スクール構想について、その狙いと思いを聞くことができた。子どもが追求したい課題を見つけ情報を得ることができるツールをもつことの大切さ、多様な人材に触れ違いを見出すことで得られる学びの刺激、それらが自発的な学びに結びつくキーであることが分かった。</p>

第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	K. W
2.協議会名	栃木県 P T A 連合会（高根沢町 P T A 連絡協議会）
3.役職	情報発信委員会副委員長
4.分科名 領域	第 5 分科会 広報活動
5.テーマ	学校が楽しくなる！仲間が集まる広報活動 ～一緒に新しいカギを手に入れよう～
6.内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場は忙しい！だから P T A が必要。 ・先生と P T A（保護者）の横のつながりを大切にする。 ・デジタルの活用を！ <p>P T A 活動ができないのは単純に忙しいから！デジタルの活用をして参加を促していく。</p> <p>（岐阜県は、県独特のコミュニケーションツール・L I N E がある）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生の中の P T A への見方や付き合い方も定着させていく。
7.感想	<p>今回参加させていただいて、たくさんの気づきと再確認ができここで得た物を少しでも自分の学校で活かして行けたらいいなと思いました。</p> <p>コロナが始まって縮小してしまった行事、コロナ渦対応のままでこのまま行ってしまうんだろうなと残念に思っているものがたくさんあります。その中で、それぞれの学校の PTA の方々は、学校側としての思いや保護者目線での思いに考え悩んでいる方ばかりだと思います。だからこそ大切にしないでいけないのは、「繋がって、寄り添うこと」だなとこの研修で再確認させていただきました。人と繋がることは、とても大切なことだと思います。この繋がりがあるだけで、一つの不安を誰かと共有することで、あっという間に解消されていくと思っています。逆に、繋がりが無い中で不安は、誰にも話せないことから不安というお化けに変化し手や足までも生え始めてしまう。</p> <p>自分以外の人と繋がりながら、他者を尊重し、色々な意見や考え方がある事に気づき、一つ一つの事に寄り添いながら、先生にも保護者と心を寄せながら活動をして行きたいなと強く思いました。</p>

第73回日本PTA全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	T. S
2.協議会名	栃木県PTA連合会
3.役職	副会長
4.分科名 領域	第5分科会 広報活動
5.テーマ	学校が楽しくなる！仲間が集まる広報活動 ～一緒に新しいカギを手に入れよう～
6.内容・感想	<p>第73回日本PTA全国研究大会 石川大会の第5分科会「広報活動」が金沢歌劇座で行われました。当分科会は三部構成になっており第一部では的場茂樹先生（金沢学院大学准教授）が、自身の経験を活かし校長先生が地域やPTAとつながる姿勢を示すことで、保護者や地域の方々も思いを伝えやすくなると話され、信頼関係を築く努力の大切さを感じさせました。</p> <p>第二部では阿部雄介さん（岐阜県PTA連合会会長）が、役員を立候補制にした事例を紹介し、「やりたい人が楽しく活動することで、次の担い手も自然に生まれる」と語られました。また知人がくじ引きで会長になり末期がんと知りながらも引き受けて任期半ばで亡くなってしまったというエピソードには胸が痛み、役員選出の方法についても考えさせられました。</p> <p>第三部では大谷イビサ氏（WEB編集長）が、LINEなど身近なツールを活用し、対面とオンラインをうまく組み合わせることで無理なく広報活動を進める工夫を紹介。「今しかできない活動を楽しむ気持ちは大切」との言葉が心に残りました。</p> <p>一口に広報活動といっても、情報の発信、周知、伝達等、様々な目的がありそれぞれにあった方法で行わないと意味がないという事を気付かされました。</p>

第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	W. O
2.協議会名	那須塩原市 P T A 連絡協議会
3.役職	東原小学校 P T A 会長
4.分科名 領域	第 1 科会 家庭教育
5.テーマ	子供の意欲を高める家庭教育 ～子供は家でこそわがままであれ～
6.内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供の問題行動の背景には、家庭環境や教育のあり方が深く関係している。 ・ 保護者が判断するのではなく、子供が自ら選択・判断できる環境づくりが重要 ・ 子供が困っていると言える家庭環境を整えることが、意欲の向上につながる。 ・ 不登校やいじめの要因を家庭教育の視点から考察し、支援のあり方を提案。 ・ 地元の子どもたちのよる「子ども歌舞伎」の口上披露
7.感想	<p>本分科会では、家庭教育の本質に迫る深い議論が展開され、参加者自身の子育てや P T A 活動に対する考え方に大きな気づきがあった。</p> <p>特に子供がわがままでいられる家庭こそが健全という視点は、日々の接し方を見直すきっかけとなった。</p> <p>家庭教育は「教える」よりも「支える」姿勢が重要。</p> <p>保護者同士の悩みの共有が、孤立感の軽減につながる。</p>

第73回日本PTA全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	T. A
2.協議会名	栃木県PTA連合会
3.役職	副会長
4.分科名 領域	特別第2分科会 今日の課題
5.テーマ	学校教育における防災の学び
6.内容・感想	<p>今回の開催地である石川は地震、豪雨の被災地として記憶に新しいところでした。</p> <p>参加した分科会並びに全体会は防災についての話でした。</p> <p>分科会では各ファシリテーター毎の防災と家庭の関わり、PTAとして地域と家庭、学校の広い範囲で活動できる立場を再認識できました。</p> <p>全体会でDX化による教育環境の拡大や地域との連携を通じて子供達のみならず、保護者も含めた地域一体化への取り組みを学ぶ機会になりました。</p> <p>今回は石川県内での各会場毎でサテライト形式で開催でしたが、栃木県のメンバーだけではなく、他地区の方々との交流や情報交換の場として大変意義深い大会参加となりました。</p>

第73回日本PTA全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	N. T
2.協議会名	栃木県PTA連合会
3.役職	企画研修委員会 副委員長
4.分科名 領域	第5分科会 広報活動
5.テーマ	学校が楽しくなる！仲間が集まる広報活動 ～一緒に新しいカギを手に入れよう～
6.内容・感想	<p>分科会に参加して、パネリストの方々より実績のある貴重なお話が聞けて、自分の引き出しがまた一つ増えました。</p> <p>今後PTA会員さんに役員さんから広報活動について尋ねられた際には、自信を持って今回教わったことをお伝えできればと思います。</p> <p>PTA活動には地域性がありますから、実際に全てを真似するのではなく、参考にできる所があれば少しでも取り入れて、負担の少ない、より充実したPTA活動ができる事を切に願います。</p> <p>パネリストの皆さんはポジティブな考え方の持ち主で「広報活動」以外にも「物事を良い方向に考える習慣」も学ばせていただきました。</p> <p>今回T（教職員）会員さんの参加が少なかったように思いました。今後は是非T会員さんにも、より多く参加されて保護者と先生両方で良い情報を得て、より良いPTA活動ができるようにして頂けたらと思いました。</p>
	<p>全体会 石川県知事 浅野大介氏 演題 「能登の創造的復興と学びの環境」 ～学習環境の魅力化あってこそその復興～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGA スクール一人一台のタブレット端末で不登校の児童生徒も見られるようになり遠くの人とも繋がれる環境になった。 ・親の仕事もオンライン、スクリーン越 <p>GIGA の利点 子供たちも社会に出て、すぐに対応できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今や農家も、プロ農家の知識をユーチューブで学ぶ時代。 <p>学び続ける 生涯学習大切 一生学び続ける力をつける。</p> <p>学校で先生が教えてくれるX 自分から学ぶ○</p> <p>卒業してから学ばない子が増えるのを防ぐ。</p> <p>算数は筋トレと同じで学習するほど力がついてくる。</p> <p>GIGA 世代の高校一年はさすがにプレゼンが出来る。</p> <p>【被災地 能登】町から高校がなくなる 奥能登まるごと魅力化必要性 大都市にはエピソードに溢れているため根拠のない自信を得られる。 過疎地・・・それができないためオンラインが大切。</p> <p><u>PTAも一緒。</u></p>

第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会 報告書

①.氏名	Y. T
2.協議会名	栃木県 P T A 連合会
3.役職	専務理事
4.分科名 領域	特別第 2 分科会・今日的課題
5.テーマ	学校教育における防災の学び
6.内容	<p>1 基調講演 文部科学省総合教育政策局 安全教育調査官 木下 史子 氏</p> <p>2 事例紹介等 (1) 大谷敬一郎 氏 (兵庫県 P T A 連合会会計理事) (2) 国崎 信江 氏 (内閣府防災スペシャリスト養成企画検討委員会 危機管理アドバイザー) (3) 猿渡 智衛 氏 (文部科学省 C S マイスター)</p> <p>3 被災地での実践を交えながら コーディネーター 猿渡氏 パネリスト上記猿渡氏以外の 3 名</p>
7.感想	<p>上記の方々は、木下氏が 2018 年の岡山の水害、大谷氏が 1995 年の阪神・淡路大震災を経験し、猿渡氏が東日本大震災被災地での教員としての経験、国崎氏が防災のスペシャリストとして能登半島地震をはじめ様々な自然災害の被災地での対応経験があり、実際の経験をもとにお話しいただいた。</p> <p>特に、印象に残ったのは、国崎氏の「実態と防災教育が乖離している」という言葉であった。防災教育の一つとして、学校での地震に係る避難訓練では、発生に併せ机の下に入る指導があるが本当にそれで命を守れるのか。国崎氏は自宅においては、極力モノを少なくし全てを固定、さらに中のものが揺れにより飛び出さないよう対策をしているとのことであった。こういった常日頃の対応を行う環境で子どもを育てることが防災教育であると話されていた。</p> <p>近年様々な自然災害が発生する中、防災意識を高める避難訓練等のあり方において、本当にその方法が適切なのか、しっかりと見直すことの必要性を感じた。</p>

第 7 3 回日本 P T A 全国研究大会石川大会 報告書

1.氏名	T. A
2.協議会名	栃木県 P T A 連合会
3.役職	顧問
4.分科名 領域	第 3 分科会 地域連携
5.テーマ	災害を通して得られた教訓を生かす ～後悔のない備えを 地域の力で～
6.内容	<p>和 6 年 1 月 1 日に発災した”能登半島地震”では、これまでの阪神淡路大震災、東日本大震災、中越地震、熊本地震などの教訓は生かされているのか。</p> <p>地震大国日本において、学校を含む地域共同体が子供の日常や安全を守り、日常の学びの中で取り組むべき備えと心構えが必要である。との現状から、基調講演に震災当時の陣頭指揮に当たった小川輪島市教育長を迎え、インフラ（交通、通信など）、マニュアルだけにたよらない訓練の実施、自分の命は自分で守り抜く、自助共助の必要性、大切さなどを学んだ。</p>
7.感想	<p>昨年県 P から北陸 3 県に支援をさせて頂いたことから、この分科会を選び、参加させて頂きました。発災当時、”住んでいるかどうかわからない”とことから捜索が難航したとのこと、地域コミュニティ（隣近所の顔のわかるつながり）の大切さを痛感しました。</p> <p>能登半島と言う地域柄、交通（道路）、通信インフラが途絶えてしまい、今でも一部の道路が不通になっている。少しでも早い復旧を望んでいます。また通信インフラでは衛星通信の必要性も痛感しました。</p> <p>七尾の被災地はまだまだ屋根が崩れている家も多く、海沿いは規制線が張られ、海岸には行けない状況でした。</p> <p>一日も早い平穏と、子どもたちの心からの笑顔が戻ることを願っています。</p>